

授業と評価の年間計画

教科	公民	科目	政治・経済	
使用教科書(発行所)		高等学校 改訂版 政治・経済(第一学習社)		
履修条件 対象生徒	選択 普通科(文型) 3年			
学習目標	1 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。 2 現状における各分野の諸課題について客観的に理解し、主体的に考察するとともに、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な資質と態度を身に付ける。			
学習方法	授業では、板書事項を漠然と写すのではなく、補足説明事項や関連事項、興味・関心を持った項目をノートに記録するなどして、整理発展させる。各項目が単なる知識の羅列とならず、相互に関連付け、目的意識をもって授業に臨むこと。 家庭学習では、教科書の授業範囲を読み、事前に内容の基本的事項を確認するとともに、概略を把握しておく。疑問点を明確にして授業に臨み、その疑問点を授業で解決する姿勢を定着させてほしい。			
学習計画 と ねらい	1 1学期 (1) 中間考査まで ア 経済の仕組みと特質 イ 経済社会の発展、経済主体と経済活動 ウ 中小企業、農業消費者問題 エ 労働問題、社会保障制度の充実 オ 環境保全と資源・エネルギー問題 (2) 期末考査まで ア 国民経済と国際経済 イ 国際経済のしくみ、国際経済機関 ウ 地域的経済統合、南北問題	<ul style="list-style-type: none"> ・経済思想、市場経済のしくみを学習することで、経済の基本的事項を理解する。 ・市場経済、財政、金融の仕組みを学習することで経済活動の基礎的事項への理解を深める。 ・労働問題や社会保障制度など現代の経済状況について理解を深め、課題克服の方法について考察させる。 ・外国為替や国際貿易を総合的に学習することで、グローバルな視野に立って現代の経済事象や経済的課題について考察できる能力を身に付ける。 		
	2 2学期 (1) 中間考査まで ア 民主政治の基本原則と日本国憲法 イ 政治と法の機能、法の支配 ウ 世界の政治体制 エ 日本国憲法の基本原則 オ 基本的人権の保障 (2) 期末考査まで ウ 国会、内閣、裁判所の機能 エ 地方自治制度、選挙制度 イ 現代の国際政治と日本 イ 国際法、国際政治の動向 ウ 国際紛争と難民問題 エ 軍備管理と軍縮	<ul style="list-style-type: none"> ・政治とは何か、法の支配とは何かなどを考え、近代民主政治はどのように発展してきたのかを学習する。また、民主主義の意味について考察を深める。 ・日本国憲法の成立過程を学習することで、民主政治のあり方や私たちと政治の関わり方を考える。 ・日本国憲法の基本原則を学習することで現代の政治の特徴や問題点を主体的に考察する態度を身に付ける。 ・国家や国際政治とは何かという観点から学習を進めることで、世界の中の日本の地位と役割を考える。 		
	3 3学期 (1) 学年末まで ア 現代日本の政治や経済の諸課題 イ 国際社会の政治や経済の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用問題、民族・人種問題、軍縮問題等を多面的に学習することによって、現代日本や国際社会における諸問題解決への方策を考察する。 		
評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	現代の政治、経済、社会、国際関係などに関心を持ち、意欲的に探求しようとしているか。 民主的な社会生活の実現と推進を図るため参加、協力する態度を身に付けているか。	現代の政治、経済、社会、国際関係などに関わる諸課題を広い視野に立って多面的、多角的に考察しているか。 社会の変化や様々な考え方があつたことを理解し、公正に判断しているか。	現代の政治、経済、社会、国際関係などに関わる事柄に関する資料を収集し、適切に選択・活用することができるか。 得られた資料や情報を効果的に活用し、問題を探求する学び方を身に付けているか。	現代の政治、経済、社会、国際関係に関わる事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身に付けているか。
評価方法	定期考査の成績を重視するが、授業における課題等の提出状況や授業態度も含め、総合的に判断して評価する。			
その他	学習進度は状況によって若干異なる場合もある。また、政治・経済など日々の社会の動きに対して常に興味・関心を持つこと。新聞の社説などにも目を通し、現代の社会の動きを大まかにでも捉えることができるようになってもらいたい。			

